

科目名	音楽教育実技演習C	授業期間	通 年
担当教員	近藤隆史	科目 No.	MME2X78
受講対象	音楽教育 2～4 年	単位数	2 単位

目 標 ／ 概 要	音楽教育や制作・演奏、実社会での活動など様々な状況を想定し、実践的にコンピューターを活用できるよう解説する。 時代のニーズに合わせたデジタル教育コンテンツを活用・作成できる能力をもつ。 新しいシステムやデバイスなどに対して、素早く活用や提案できるだけの柔軟な対応能力をもつ。 後半の実習では、能動的学修（アクティブ・ラーニング）を導入し、学生主体での自由な発想によるコンテンツ制作を行い、時代の流れにそった制作や教育について関心を持つ。
-----------------	---

授 業 計 画	春 学 期					
	1	オリエンテーション				
	2	教育におけるデジタルコンテンツ				
	3	現在の ICT と今後の動向を考察				
	4	教育に効果的なデジタルコンテンツを考察				
	5	音楽活動に効果的なデジタルコンテンツを考察				
	6	教育や音楽に必要なコンピュータースキル				
	7	教材の制作（オフィス）				
	8	教材の制作（楽譜制作ソフト）				
	9	ソフトを連携しての教材制作				
	10	音楽データの取り扱い（録音～PC への読み込みと編集）				
	11	情報発信の心構え				
	12	セキュリティ／アクセシビリティ				
	13	教材の制作（実践）				
	14	教材の制作（完成と発表）				
	15	春学期総括				
	秋 学 期					
	1	秋学期へ向けてのオリエンテーション				
	2	タブレットなど新しい技術への柔軟な対応と提案				
	3	コンテンツ利用者の環境を考察（ハードウェア、ソフトウェア）				
	4	コンテンツ制作ソフトの操作（基本項目の入力）				
	5	ウィジェットの活用（画像、地図、楽譜埋め込み）				
	6	ウィジェットの活用（年表、問題出題）				
	7	コンテンツの制作実習（作品完成）				
	8	発表の準備（データの完成）				
	9	発表の準備（動作のチェック）				
	10	発表と相互評価（制作作品の発表）				
	11	発表と相互評価（お互いの作品を評価）				
	12	課題の提出				
	13	音楽とプログラミングについての今後を考察				
14	教育とプログラミングについての今後を考察					
15	総括					

準備学習の内容	学習内容を自己の活動へ取り込む。 教室の空き時間を把握し、積極的にパソコンやアプリケーション、機材などを利用する。					
履修上の注意	卒論やレポート、教育実習や実社会でのコンピューターの扱いを想定した実践的内容となるので積極的に履修すること。コンピューターの基本操作は修得していることを前提とするため「メディアリテラシー実習Ⅰ」「同Ⅱ」履修後の履修が望ましい（メディアリテラシー実習Ⅱ未履修者については第1回の授業時に相談に応じる）。課題制作実習や発表をおこなうので積極的な参加が期待される。					
評価方法	試 験	課題(レポート含)	発 表	平常点	その他	合 計
	補 足	○	○	○	○	
教材等	Mac、iPad とアプリケーション（iBooksAuthor、Finale、PowerPoint、Word、Excel、ほか）および周辺機器。 音楽制作および音響機材全般。 教科書は使用しない					